

# 上北農業生産情報 第5号

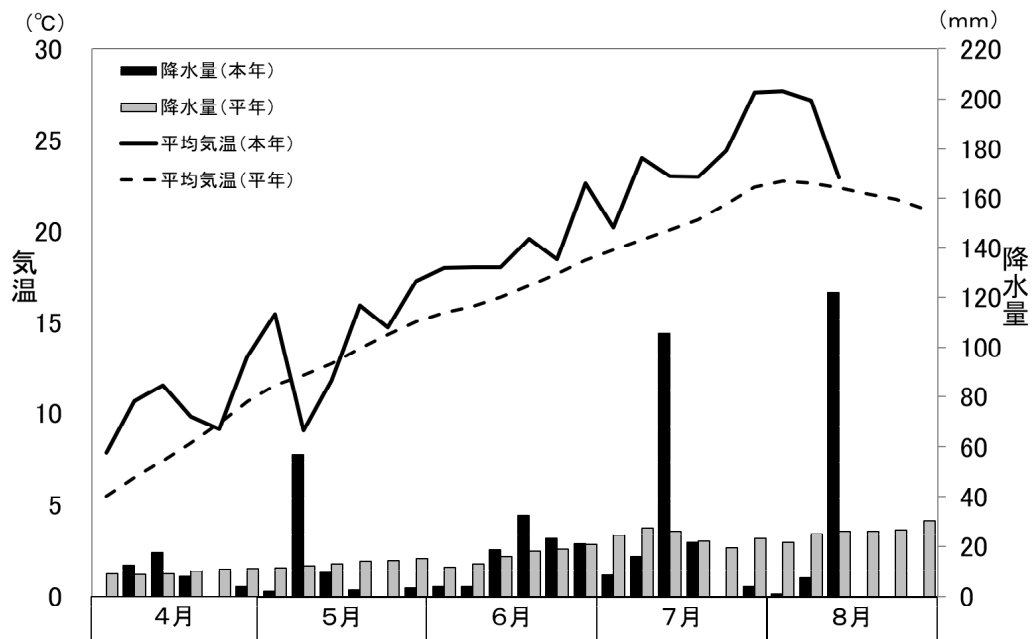
令和5年8月22日  
「攻めの農林水産業」推進上北地方本部

## 秋の農作業安全運動展開中

実施期間：令和5年8月15日（火）～10月31日（火）

- 慣れた作業でも油断せず、安全を確認して、注意しましょう！
- 必ず、作業の合間に十分な休憩を取りましょう！
- 自分は「大丈夫」と過信せず、無理のない作業をしましょう！
- 1人での作業は避け、やむを得ず1人で行う場合は、家族に作業場所と帰宅時間を伝え、携帯電話を持ちましょう！
- 家族や周りの人など、地域全体で注意を呼び掛けましょう！

## 気象



【半旬別平均気温・降水量の推移（十和田アメダス）】

### 【7月】

- ・平均気温は、期間を通して平年を上回った。
- ・日照時間は、上・下旬は平年を上回り、中旬は平年を下回った。
- ・降水量は、上・下旬は平年を下回り、中旬は平年を上回った。

### 【7月の気象（十和田アメダス）】

項目	平均気温℃		最高気温℃		最低気温℃		日照時間 h		降水量 mm	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
上旬	22.1	19.3	26.4	23.8	18.4	15.5	53.1	43.8	24.5	51.9
中旬	23.0	20.4	26.6	24.8	19.9	16.8	27.5	41.3	127.0	47.9
下旬	26.2	22.0	31.4	26.1	21.1	18.4	103.2	50.9	4.0	42.4

注) 気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計(下旬は11日間の平均・合計)

## 【8月上旬】

- ・平均気温は、上旬は平年を上回った。
- ・日照時間は、上旬は平年を上回った。
- ・降水量は、上旬は平年を下回った。

### 【8月上旬の気象（十和田アメダス）】

項目	平均気温℃		最高気温℃		最低気温℃		日照時間 h		降水量 mm	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
上旬	27.5	22.7	32.9	27.3	22.6	19.0	89.4	51.1	8.5	46.5

注) 気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計

## 東北地方 1か月予報（8月19日～9月18日までの天候見通し）

令和5年8月17日 仙台管区气象台 発表

○暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

## 水 稲

### 《生育状況》

- 1 管内の出穂最盛期（50%出穂）は、平年より5日早い7月31日であった。
- 2 出穂後の開花・登熟は順調に進んでいる。

### 【上北管内の市町村別水稻出穂状況】

市町村	作付面積 (ha)	出 穂			最盛期の 平 年 差	備 考
		始め	最盛期	終わり		
十和田市	3,000	7月27日	7月29日	8月1日	早6日	[出穂始め] 5%到達日
七戸町	1,290	7月28日	7月30日	8月2日	早6日	
東北町	956	7月29日	7月30日	8月2日	早6日	[出穂最盛期] 50%到達日
野辺地町	19	7月29日	8月1日	8月3日	早6日	
横浜町	140	7月29日	8月1日	8月3日	早6日	[出穂終わり] 95%到達日
三沢市	182	7月31日	8月2日	8月4日	早7日	
六戸町	675	7月29日	8月1日	8月3日	早4日	
おいらせ町	405	7月29日	8月1日	8月3日	早6日	
六ヶ所村	48	7月29日	7月31日	8月1日	早8日	
管内全体	6,715	7月28日	7月31日	8月2日	早5日	

### 《今後1か月間の主な作業》

#### 1 水管理

落水時期が早すぎると、玄米の肥大が抑えられ、収量や品質・食味の低下を招くので、湿田では出穂後20～25日、乾田では出穂後30～35日を目安に落水する。

#### 2 刈取り

- (1) 「まっしぐら」の刈取適期の始め(出穂後の積算気温960℃の到達日)は、出穂期が7月31日のほ場で9月9日頃になると見込まれる。

【「まっしぐら」の刈取適期の目安(十和田アメダス：8月16日以降は平年値使用)】

刈取適期	出穂期				
	7月27日	7月29日	7月31日	8月2日	8月4日
適期始め	9月6日	9月6日	9月9日	9月12日	9月17日
適期終わり	9月19日	9月19日	9月22日	9月25日	10月2日

注) 適期始めの目安は出穂後積算気温960℃到達日、適期終わりの目安は出穂後積算気温1,200℃到達日

- (2) 個々のほ場の刈取適期は、出穂の早晩や籾数の多少によって異なるので、籾の黄化程度(ほ場全体の籾の約90%が黄化した時期)や籾水分(25~26%程度まで減少した時期)等から総合的に判断する。
- (3) 本年は出穂後の高温により、刈遅れによる茶米や胴割米の多発が懸念されることから、特に適期内の刈取りに努める。

### 3 乾燥

- (1) 登熟ムラによる高水分籾や未熟な籾の混入が多い場合は、籾水分18%程度で一旦乾燥を中断し、最低5~6時間以上貯留してから仕上げ乾燥を行う二段乾燥など、水分ムラに配慮した乾燥に努める。
- (2) 「良食味・高品質米」生産のため、適正水分15.0%を目標に乾燥する。

### 4 その他留意する点

- (1) 倒伏した場合は可能な限り株起こしを行う。また、冠水したほ場では、可能な場合は動力噴霧機で散水し、稲に付着した泥を洗い流す。
- (2) 刈取りに支障がないよう、刈取り前までに降雨に備えた排水路の整備を行う。
- (3) 早期の倒伏や冠水被害があった場合は品質の低下が懸念されるので、できるだけ別刈り、別乾燥、別出荷する。
- (4) コンバイン等の機械の点検時には必ずエンジンを停止する。ほ場の出入りや傾斜地の走行は慎重に行うなど、農作業事故が起きないように十分注意する。

## 大豆

### 《生育状況》

- 1 生育観測ほの生育は、開花期は平年より8日早い7月27日で、8月10日現在の草丈は平年を上回っている。
- 2 ベと病の発生が少程度見られるほか、ウコンノメイガ等食葉性害虫による食害が散見される。

### 【生育観測ほの生育状況(品種：おおすず)】

調査地	年次	開花期 (月/日)	8月10日現在 草丈(cm)	備考
十和田市切田	本年	7/27	124.6	6/5は種(平年:6/7)
	平年	8/4	83.5	
	前年	7/31	97.1	

注) 平年値は平成13年~令和4年の平均値

### 《今後1か月間の主な作業》

#### 1 病害虫防除

- (1) マメシンクイガの防除は原則2回防除とし、1回目は8月第6半旬~9月第1半旬、2回目はその7~10日後に行う。ただし、前年が他作物で周辺に大豆ほ場が無い場合は、1回目の防除のみで良い。
- (2) 紫斑病は、開花期後20~40日が防除適期であり、8月下旬~9月初めのマメシン

クイガ防除との同時散布が可能である。

- (3) チオファネートメチル剤(トップジンM)、ベノミル剤(ベンレート水和剤)、アゾキシストロビン剤(アミスター20フロアブル)は、紫斑病に対する耐性菌が確認されているので、昨年使用した場合は別の薬剤を使用する。

## 小麦

### 《今後1か月間の主な作業》

- 1 は種予定のほ場で雑草が発生している場合は早めに耕起し、雑草をすき込む。
- 2 ほ場の団地化を図り、明きょや弾丸暗きょを施工し、十分な排水対策を行う。
- 3 地力増進のため堆肥を施用するほか、土壌分析を行い、適正pH6.0～6.5となるように苦土石灰等を施用する。
- 4 適期(9月15日～25日)には種できるよう、耕起・砕土などのほ場準備を行う。耕起・砕土は、出芽や苗立ちの確保に関わるので、丁寧に行う。
- 5 雪腐病などの防除のため、薬剤による種子消毒を徹底する。

## ながいも

### 《生育状況》

- 1 生育観測ほの8月10日現在の生育は、いも長39.8cm(平年比103%)、いも重230.1g(平年比124%)、いも径41.0mm(平年比113%)で平年を上回っている。
- 2 一般ほ場でも、新しいもの肥大は順調であるが、7月中旬以降の乾燥の影響で、茎葉の繁茂が緩慢で葉色が淡く、追肥が効いていないほ場が見られる。
- 3 葉渋病・炭そ病の発生が一部でみられている他、カスミカメムシ類による被害が散見されている。

#### 【生育観測ほの生育状況(種いも：1年子芽付き)】

調査地	年次	植付日 (月/日)	つるの初 頂到達日 (月/日)	8月10日現在		
				いも長 (cm)	いも重 (g)	いも径 (mm)
東北町野田頭	本年	5/ 5	7/10	39.8	230.1	41.0
	平年	5/12	7/10	38.8	186.1	36.4
	前年	5/ 9	7/10	43.3	224.4	42.7

注) 平年値は平成25年～令和4年の平均値

### 《今後1か月間の主な作業》

- 1 台風に備えて支柱の補強や、明きょの設置等排水対策を徹底する。
- 2 病虫害防除は、炭そ病、葉渋病、ナガイモコガの防除を中心に計画的に行う。

## 露地ねぎ

### 《生育状況》

- 1 生育観測ほの8月10日現在の生育は、草丈、茎径とも平年を下回っている。
- 2 一般ほ場では、7月中旬から出荷が行われており、肥大は概ね良好である。
- 3 一部のほ場でさび病、斑点性病害、ネギアザミウマの被害が見られる。
- 4 一部のほ場で7月第5半旬からの高温乾燥の影響による葉先枯れが見られる。

**【生育観測ほの生育状況(品種：夏扇パワー)】**

調査地	年次	は種期 (月/日)	定植期 (月/日)	8月10日現在	
				草丈 (cm)	茎径 (mm)
十和田市洞内	本年	1/20	4/ 1	96.0	25.6
	平年	1/30	4/17	109.7	27.2
	前年	1/20	4/11	104.6	28.6

注) 平年値は令和2年～令和4年の平均値

**《今後1か月間の主な作業》**

- 1 明きよの設置等排水対策を徹底する。
- 2 生育の進み具合に合わせ、葉色が淡くなりすぎないように追肥を行う。また、最終培土(収穫予定の15～20日前が基準)は、適期に行う。
- 3 病害虫防除は、さび病、斑点性病害の防除を中心に計画的に行う。

**ごぼう**

**《生育状況》**

- 1 生育観測ほの8月10日現在の生育は、草丈は平年比110%、葉数は132%で平年を上回っている。
- 2 一般ほ場の生育は概ね順調である。7月中旬の雨により、一部で穴落ちが見られた。
- 3 病害虫は、目立ったものは特に見られない。

**【生育観測ほの生育状況(品種：柳川理想)】**

調査地	年次	は種期 (月/日)	8月10日現在	
			草丈 (cm)	葉数 (枚)
三沢市猫又	本年	4/28	127.7	3.7
	平年	5/ 1	115.7	2.8
	前年	5/11	105.2	2.6

注) 平年値は平成25年～令和4年の10か年平均値

**《今後1か月間の主な作業》**

- 1 黒斑細菌病の防除のほか、ヒョウタンゾウムシの被害が予想されるほ場では、本虫を対象とした防除を実施する。

**りんご**

**《生育状況》**

- 1 生育観測ほの「ふじ」の8月11日現在における果実肥大(横径)は7.0cmで、平年比105%、前年比100%であった。
- 2 黒石市(りんご研究所)における果実肥大(横径)は7.3cmで、平年比109%、前年比99%となっている。

**【生育観測ほの生育状況】**

調査地	品種	8月11日現在の果実肥大(横径)				
		本年(cm)	平年(cm)	平年比(%)	前年(cm)	前年比(%)
十和田市米田	ふじ	7.0	6.6	105	7.0	100

注) 平年値は平成28年～令和4年の7か年平均値

### 《今後1か月間の主な作業》

- 1 仕上げ摘果が終了した園地でも、今一度見直し摘果を徹底する。
- 2 早生種は熟期が揃わないので、地色、着色を見て2～3回に分けて収穫する。なお、ストップール液剤の散布後7日間、ヒオモン水溶剤の散布後4日間は収穫できないので注意する。
- 3 モモシクイガの産卵が続いているので、無袋栽培では8月末までの薬剤散布にはモモシクイガの防除剤を混用する。

## りんどう

### 《今後1か月間の主な作業》

- 1 ネット上げ  
草丈の伸びに応じてこまめにネットを引き上げ、茎の曲がりを防ぐ。
- 2 病害虫防除  
(1) 葉枯病や褐斑病、アブラムシ類やアザミウマ類の防除に努める。茎葉が繁茂していると薬液が付着しにくくなるため、丁寧に散布する。  
(2) ほ場周辺の雑草は、害虫の発生源となるため除草を徹底する。

## 牧草

### 《生育状況》

生育観測ほでは、平年より1日遅い7月18日に2番草を収穫し、10a当たり乾物収量は305kgで平年比145%であった。

#### 【生育観測ほの生育・収量状況(オーチャードグラス主体)】

調査地	年次	収穫日 (月/日)	草丈 (cm)	乾物収量 (kg/10a)
十和田市大不動	<b>本年</b>	<b>7/18</b>	<b>92.9</b>	<b>305</b>
	平年	7/17	78.1	210
	前年	7/21	77.6	190

注) 平年値は平成25年～令和4年の10か年平均値

### 《今後1か月間の主な作業》

- 1 2番草の収穫及び追肥  
2番草を収穫していないほ場は、速やかに収穫するとともに追肥する。
- 2 草地の更新  
牧草の収量が減少してきた草地は計画的に更新し、生産力の回復に努める。今後は以下により作業を進め、9月中旬を目途に、は種を終えるようにする。  
(1) 土壌改良・は種床造成を終えている場合  
は種床造成後、3～4週間放置し、雑草が十分に出揃ったら非選択性除草剤を散布して、雑草表面が乾いてから、牧草の施肥とは種を行い鎮圧する。  
(2) これから草地更新する場合  
ア 土壌改良・は種床の造成(8月末まで)  
堆肥の散布と耕起を行い、石灰質資材やリン酸質資材を散布、砕土・整地しては種床を造成する。  
イ 3～4週間放置  
は種床造成後3～4週間放置し、雑草を十分に発芽させる。  
ウ 除草剤散布

雑草が十分に出揃ったら非選択性除草剤を散布する。

**エ は種・施肥・鎮圧**

除草剤散布後、雑草表面が乾いたら、牧草のは種と施肥を行い鎮圧する。

**飼料用とうもろこし**

**《生育状況》**

生育観測ほの絹糸抽出期は8月6日で平年より2日早い。

**【生育観測ほの生育状況（品種：パイオニア115）】**

調査地	年次	は種期 (月/日)	7月20日現在		雄穂抽出期 (月/日)	絹糸抽出期 (月/日)
			草丈(cm)	葉数(枚)		
東北町北栄	本年	5/22	216.4	14.8	8/3	8/6
	平年	5/21	141.3	13.0	8/6	8/8
	前年	5/21	130.8	11.5	8/9	8/12

注) 平年値は、平成25年～令和4年の10か年の平均値

**《今後1か月間の主な作業》**

- 1 ほ場ごとの刈取適期（黄熟期）を確認しながら、計画的に刈取りを進める。
- 2 大雨・強風等による倒伏・折損が発生したほ場では、速やかに刈取る。